

富山海域 藻場ビジョン

実効性のある効率的な藻場の保全・創造に向けた行動計画（～令和13年度）



- 当該海域における藻場は、沿岸域の生物生産を支える重要な役割を果たしているが、生育環境の変化などの影響により、一部地先では生育量の減少や構成種の変化などが確認されている。
- このため、ソフト・ハード対策の実施により、現状（令和3年度）の藻場面積1,172haの維持を目標とする。

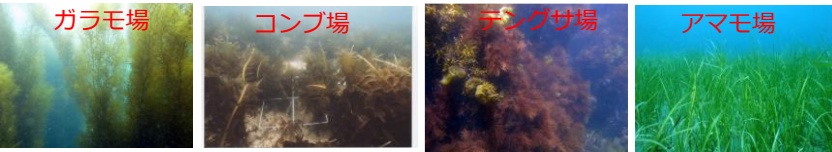
●藻場の役割と分布状況

藻場の役割



魚類の生息場 いか類の産卵場 あわび類の餌場

対象藻場とその構成種

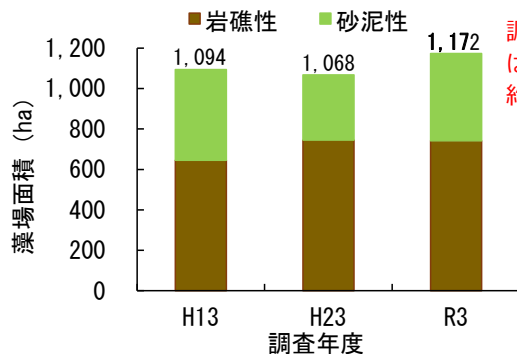


ホンダワラ類 コンブ類 テングサ類 アマモ類



●藻場面積と海藻現存量の変化

富山海域の藻場面積の推移



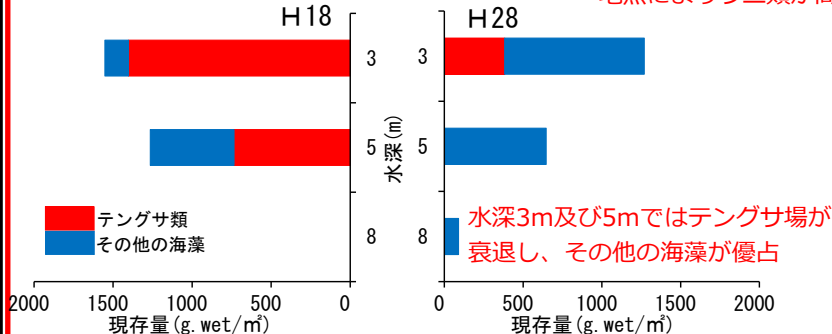
調査手法が異なり単純比較は出来ないが、いずれも約1,100haで大きな変化無し

植食動物の生息状況



地点によりウニ類が高密度

海藻現存量の変化事例（滑川市中川原地先）



水深3m及び5mではテングサ場が衰退し、その他の海藻が優占

★藻場面積の推移だけでは据えることができない変化を確認

衰退要因

海域の透明度の低下、浮泥※の堆積、海藻の生長量を上回る植食動物による摂食など

※川から流入する泥やシルト分、プランクトンの死骸が起源の有機物等の微粒子を指し、藻体上に著しく堆積すれば生育困難となり、基質上に堆積すれば生殖細胞の着生を妨げ、藻場の衰退が起こる

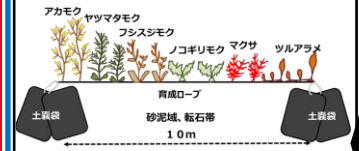


藻体や基質への浮泥の堆積

●ソフト・ハード対策

ソフト対策

海藻の種苗移植・母藻設置など



ウニ類などの密度管理



ウニ類の駆除作業

ハード対策

基質の設置など



富山海域で設置された自然石の増殖場

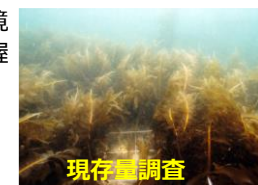
増殖場整備などのハード対策については、要望に応じて実施を検討

検証反映

モニタリング・検証

<モニタリング>

- ・タイプ別藻場面積
- ・海藻の現存量や種組成
- ・ウニ・巻貝類の生息密度
- ・魚類による摂餌状況
- ・生育環境など把握



現存量調査

<検証>

- ・対策の実施状況
- ・目標達成の状況
- ・海域環境の変化等の状況



魚類の摂餌状況把握